



光明寺だより

第88号
 令和3年7月発行
 真言宗 光明寺
 宇都宮市野沢町342
 TEL 665-0545
 FAX 665-5422

彩雲

彩雲は、太陽の近くを通りかかった雲が、赤や緑など様々な色に彩られる現象のこと。古来から瑞相(良いことが起きる前触れ)の一つと言われ、「見た人には幸運が訪れる」とも言われています。

真言宗の教え (No.3) 即身成仏

この身このままで

仏になれる

真言宗の教えの中で、他の仏教諸宗との一番の違いは「即身成仏」という考え方があります。

心の救済は来世にあるとするこれまでの仏教では、仏になるためには途方もなく長い時間がかかるとされてきました。これを「三劫成仏」といいます。これに対し真言宗では、機縁が熟せば誰もがすぐに成仏できる「即身成仏」を説きました。

人も仏も本質的には同じであり、すべての人はころの中に仏性を備えています。本来もっている仏性に目覚めれば、生きながらに

して仏の境地に至ることができるというのがお大師さまの教えです。しかし人は内に仏性を備えているが、さまざまな迷いの雲に覆い隠されているのが現状であるかもしれません。

迷いの雲を取り払う善行が仏になる第一歩かもしれません。

善行

- いのちを繋いでくれた先祖への感謝 (法事 墓参)
- 仏様と縁をむすぶ (写経 巡礼 遍路)
- 仏様を讃える (お経 御詠歌)
- 思いやりのある心を育てる (十善戒)
- 自らの身心を整える (座禅 阿字観 月輪観)

令和二年度光明寺護持会収支報告書

2020/04/01 から 2021/03/31

単位 円

科 目	収 入	支 出
繰 越 金	783,041	
会 費	4,560,000	
宗 派 課 金		598,680
保 険 料		618,204
分 担 金		96,270
特別会計へ		1,000,000
慶 弔 費		15,000
通信印刷費		526,934
諸 会 費		62,000
教 化 費		400,900
営 繕 費		856,352
計	5,343,041	4,174,340

残金1,168,701円は次年度に繰り越します。

※現金にて出納しました。

※右記残金相違なく保管しております。1,168,701円

※確認書類(出納簿 領収書綴り)。

左記の通りご報告致します。 令和 3 年 6 月 1 日

護持会会長 藤村 真琴 ㊞

会 計 別井 実 ㊞

会 計 藤村 真行 ㊞

左記決算書を監査したところ、諸帳簿、決算書
証ひょう書類等符合し違算ないことを証します。

令和 3 年 6 月 15 日

会 計 監 査 村田 久男 ㊞

川久保敏男 ㊞

特集

真言宗智山派総本山智積院

「令和五年は弘法大師
ご誕生一二五〇年」

令和五年(二〇二三年)は、弘法大師空海様がお生まれになって一二五〇年にあたる記念の年にあたります。

弘法大師空海様は、真言宗を開宗された方とい



うだけでなく、古来より親しみを込めて「お大師さま」と呼ばれて多くの方々に信仰されてきました。四国のお遍路さんなどを見ると、今や世界中の方々がお大師さまに手を合わせ、いつもお大師様とともにあるという「同行二人」の祈りを捧げています。そのようなお大師さまのご遺徳に対し、私たちは力を合わせ、ご恩に報いていきます。みなさま、どうぞこのご勝縁をとにもお祝いいたしましょう。

「新しくなった

智積院会館」

京都東山の地にある
真言宗智山派の総本山智

積院。智積院会館はその中にある宿坊です。昭和四十一年(一九六六年)より、約五十年にわたり皆さまから愛された智積院会館、建物の老朽化のため、装いを新たに、生まれ変わりました。洋室や和洋室など多様なお部屋で、より快適に



お過ごしいただけます。
「総本山智積院」

平安時代、弘法大師空海は唐から密教を伝え、真言宗を立教開宗しました。それより約三百年を経て、興教大師覚鑿は高山に大伝法院を建立して、真言宗を興隆、その後、紀州に根来山を開創



しました。桃山期に至り、根来山は秀吉の焼討ちに逢い、学頭・玄宥僧正は、難を京都に避け、東山に智積院を再興しました。後に智積院を中心

お寺から

◎本堂での法事

新型コロナウイルスの拡大防止の為、当山での法事も、本堂に直接お上がり頂き、なるべく少人数で(特に遠方からのお越しは、当面の間ご遠慮願ひ)堂内の戸、窓を開放し、椅子の間隔を開け、マスク着用をお願いしています。

◎式場等での通夜・葬儀

当面の間、少人数、マスク着用でお願いします。最近コロナの影響で、通夜

でしたが、仏様の成仏を願う大変重要な儀式です。このコロナが収束し、以前のように、通夜、葬儀ができることを願います。

◎お世話人様方の

集金について

お世話人様の中には高齢の方もおり、暑い時期ですのでできるだけスムーズな集金ができますよう、ご協力をお願い致します。

編集後記

◎今年もコロナ禍が収まりそうにありません。昨年同様、お施餓鬼は山内僧侶で勤修、翌日から塔婆配布といたします。大般若も状況によつては昨年同様といたします。

◎現在、客殿改修、寺務所、庫裡、老朽化の為建て替え工事中です。皆様にはご不便をおかけしていますが、ご容赦ください。



住職記

お施餓鬼について

—— コロナ禍における本年の ——

本年もお施餓鬼法要は、コロナ感染防止のため規模を縮小し、山内職員だけで執り行います。檀信徒の皆様の参加はお控え下さい。

【本年のお施餓鬼塔婆の

お渡しについて】

八月六日(金) 〽 お盆まで。

- ・本尊向かって右側に世話人様扱いの方。
 - ・本尊向かって左側に郵便扱いの方。(五十音順)
 - ・遠方の方は秋の彼岸までお塔婆お預かりいたします。
 - ・取りに来るのがむずかしい方
- 境内の供養塔に供えさせて頂きます。



【集金について】

—— 世話人様扱いの方 ——

お世話人様がお伺いし、集金いたしますので宜しくお願いいたします。

—— 郵便扱いの方 ——

寺から直接郵送の皆様にはお手数ですが郵便局から振り込みをお願いします。手数料はお寺負担です。

檀信徒の皆様ご協力をお願いします。

初盆について

本年も昨年同様、各家庭でお飾り頂き、僧侶の読経(棚経)はなるべく控えさせていただきます。

—— 読経を希望する方 ——

七月中にご連絡ください。

※**迎え盆送り盆について**、本来

であれば、ご家族全員でお参り頂きたいのですが、ご無理のない様お願いします。

大般若について

十一月八日(月)の大般若についても現時点で、施餓鬼同様になりたいと思います。住職、副住職で祈願します。(少人数での法要、イベント無し)

お札は、十一月九日から十二月末日までに取りに来て頂きます。

なお、**大般若のお申込み**

は、例年同様七月に送付する振り込み用紙に、大般若希望の有無を記入して頂き、護持会費と一緒に送金して下さい。



盆棚の飾り方一例